

湘友会報 2007

第49号・2007年発行
湘南高等学校湘友会事務所
〒251-0053 藤沢市本町 3-1-3 湘南ビル 301
電話・fax 0466-50-0386
<原則として月・水・金の13:00～16:00に事務所幹事不在>
E-mail shoyukai@cityfujisawa.ne.jp
<http://www.shoyukai.org>

2007年は湘南高校創立86周年です

2007年度湘友会総会のご案内

多数の会員の出席を期待します。

日時 平成19年6月23日(土)

受付 午前10時00分

開会 午前10時30分

場所 湘南高校内 湘南会館

総会終了後講演会(右記事)

懇親会: 午後1時 清明会館食堂(校内)

懇親会会費 2,000円(当日会場受付で受領)

今年はアルコールなしの会食形式です。

講演会

講師: 弁護士 佐藤 典子 氏(37回生)

演題: 「裁判員制度を考える」

<佐藤 典子 氏 略歴>

藤沢・辻堂育ち、1962年
湘南高校37回卒、津田塾
大学、東京大学卒業、2年
間の司法修習生を経て
1973年検事任官。東京地
検を振出しに全国の地・高
検に勤務。この間仙台高検
総務部長、旭川地検検事正
などを歴任。2004年、最
高検検事で退官。



現在、小田原三の丸法律事務所にて弁護士活動

半世紀ほど以前に、「12人の怒れる男」というアメリカ映画がありました。内容は、陪審員に選ばれた12人の男たちの、陪審員室内における意見の葛藤を描いたものでした。名前も明かされず番号で呼び合う偶然選ばれた男たちが、殺人事件の容疑少年の有罪から無罪へ傾く様子をリアルタイムに写した地味な映画でありました。しかし、国情が違うと思っていたこんな場面が、間もなく私たちにも降りかかってくることになりました。2008年から始まるという裁判員制度は、内容等が不詳のまま導入をめぐっての喧しい世論があることも事実です。制度が始まれば、紳士淑女が多い湘友会員にも裁判員が回ってくる可能性も高いと考え、裁判官、弁護士、検事という専門職に対峙する裁判員の目的や役割内容などについて、ひとまず知識を有しておくのも時流ではないでしょうか。

日頃サスペンスドラマなどを見ていると、法廷場面での主人公は弁護士で、対応する検事はクールに追及する役割が多い。これはシナリオ上のことで、犯罪を立件する検事の役割は、社会の治安維持のために重要な意義を有するためでもあります。その世界で、活躍してきた佐藤さんに、検事の立場からの裁判員制度を伺おうと思います。

総会運営の輪番参加と「10年会費」納入のお願い
～ 卒業回数末尾が「7」の

37・47・57・67・77回生の皆さんへ～

湘友会では1997年から「湘友会細則」により、会員の活動活性化のため、卒業回数の末尾が西暦の末尾の数字と一致する会員が、輪番で総会運営に当たるとともに、「10年会費 5,000円」を納入していただくシステム(1996年までは毎年年会費を納入することになっていました)を実施しています。湘友会の年度会計は46,000名を越える会員に向けての会報発行や郵送費だけで年間数百万円もの経費がかかり、近年単年度では赤字になっています。湘友会の健全財政を維持するために、10年に一度の5,000円の会費納入は、是非ともご協力をお願い致します。

そして、今年の総会運営に当たります37・47・57・67・77回生の皆さんは、特に総会にご出席下さい。

また定時制・通信制の7・17・27・37・47回生の皆さんも同様に「10年会費 5,000円」の納入と、総会へのご出席をお願い致します。

1952年卒業以降で今までの輪番年に「10年会費」未納の方は、郵便局の払込取扱票(湘友会事務所へご請求下さればお送りします)により、下記宛に必ず払い込み下さい。

口座番号: 00250 - 4 - 14177 (右詰めに記入)

加入者名: 湘友会

金額: 5,000円

通信欄に「10年会費」、「卒業回数」を明記して下さい。

湘友会会員の皆様へ



湘友会会長 天野 武和

湘友会員の皆様には、ますますご健勝にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

今年も、役員各位のご努力によって、このように充実した内容の会報が発行されることは、誠に喜ばしいことです。

湘友会各支部の活動も活発に行われています。学区制の撤廃により、今後は従来に増して広く県内全域から新入会員が加わってくるであろうことを考えても、これは大変うれしいことです。また、部活OB・OG会や職場を同じくする会員の集い等、縦の繋がりが強まっているのも心強いかがりです。湘友会ホームページの活用も進んでいます。「湘南卒」のネットワークはさらに広がっていくことが期待されます。

このような、会員相互の親睦にとどまらず、昨年来、母校の在校生に卒業生が直接動きかけるという試みが、入江前校長はじめ学校側との協働により動き始めています。

例えば第一に、卒業生が、自身が歩んできた職業の実像や人生経験を在校生に直接語りかけて、職業の大切さを知ってもらい進路選択にも役立ててもらおうと、各学年別の講話の時間が設けられました。快くお力をお貸しくださった渋谷千恵磨(36回)、藤井真理子(48回)、奥村直生(54回)の3氏に対し厚く御礼申し上げます。都立高校あるいは県内の高校の一部でも既に実施されており、湘友会としては今後も様々な分野の会員にご協力をお願いして、継続していきたいと考えております。

第二には、22の県立高校の同窓会有志と在校生による第一回「青春 かながわ校歌祭」が、昨年10月県教育委員会の共催のもとに横浜市において開催されました。

古き良きものを若い世代に伝承していきたいという世相も反映してか、予期以上の盛り上がりを見せました。入江前校長が県内各高校に積極的に呼びかけてくださったほか、湘友会が運営の主たる役割を分担し、多くの役員、会員が献身的な協力をしましたが、本稿では、その代表として佐藤幹事(31回)のお名前を記させていただきます。

ところで、わが県の県立高校は目下制度変革の真っ只中にあり、現場のご苦労は並大抵のものではないと拝察されます。

高校教育は半ば義務教育化しており公的教育にかけられる期待は大ですが、一方で「民でできることは民へ」の流れもあって私立高校の存在感が一層高まり、公立高校のあり方は揺れています。

公立高校は、もっと社会へ向けてドアを開いて外部の声に耳を傾け、外へ発信もするべきであろうし、一方、社会とか地域などといわれる中であって「卒業生社会人」は、真っ先に学校と社会とのパイプ役にならないといけないでしょう。

それにしても県立高校においては、校長の権限範囲が、その責任の大きさに比して不釣り合いに狭く、赤木湘南の時代とは比較できないにしても、改革のためにはまずこの辺りから手を付けていかなければ、道のりは遠いように思われます。

私達は、県立高校湘南に期待し、サポートし続けます。

現状に安住することなく



湘南高校校長 川井 陽一

平成11年度全日制の教頭として一年間お世話になりました。この度、校長として着任し、改めて身の引き締まる思いです。

現在、教育改革が叫ばれる中、とりわけ公教育に厳しい視線が注がれています。しかしながら、湘南高校には、何よりも伸びやかで自主的な気風、逞しさと優しさを育む活動が見られ、厳しい視線を跳ね返す教育内容があると確信しています。

一方で、現状に安住することなく、さらに湘南高校の魅力を高め、生徒の力を引き出し、高めるための努力、工夫も必要と感じています。また中学生や保護者に湘南高校の魅力ある優れた教育活動を伝える努力、言い換えれば発信力もまだまだ不足していると感じています。

今、各課程を見ると、それぞれに大きなテーマがあります。全日制においては、文武両道の伝統を大切にしながら、進学実績をどのように伸ばしていくか。定時制においては、平成21年度の単位制移行に向け、「基本計画案」にどのような肉付けを行い、計画案を具体化していくか、また、通信制においては、平成20年度通信制独立校開校に向けて、円滑な移行をどのようにして実現していくか。

もちろん、教職員一同協力し、全力を傾ける所存ですが、テーマの解決に向けては、ぜひ、湘友会の皆様のお力添えをと思っております。

より期待されそして評価される湘南高校を目指し、私自身精一杯取り組みたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

トピックス

サポート委員会報告

委員長 山田 (32回)

2005年12月役員会において、母校支援を目的としたキャリア教育実施への協力「かながわ校歌祭」(実行委員長校 開催の協力と参加)の2つの事業を推進するための特別委員会として、「サポート委員会」の設置が了承されました。母校との連携のもとに行われた2006年度の活動を報告します。

キャリア教育実施への協力

担当:[主]山田(32)・山本(47・当時教頭)

<1年生> [2006年11月6日]

講師:藤井眞理子氏

(48回・東京大学教授 先端科学技術センター)

演題:「キャリア・デザイン わたしの未来を考える」

内容:キャリアウーマンとして、大蔵省(財務省)で担当している仕事の紹介(経済協力、国際交渉、行政官)/大学での仕事の紹介/変わる日本の経済と社会/1年生が40歳になった時の日本/

[キャリアを考えるヒント]

将来は不確定、今できることを大切にしよう

学問も仕事も積み重ね 基礎が大事

「学ぶことは楽しいこと」だと発見しよう

学びは学校だけでは終らない

若さを大事にしよう

若いときには集中できる 夢中になれるものを見つめよう

好奇心は大切に、考えは柔軟に

優先順位を考える

グローバルな社会では「オンリーワン」の強みが生きる。人生は長い、世の中は変わる・・・くよくよしない気持ちも必要 家庭経営も重要な仕事

選んでゆくのは「自分」です!

<2年生> [2007年1月15日]

講師:奥村直生氏

(54回・代々木ゼミナール神奈川統括事務局長)

演題:「現在を生きるための進路について」

内容:湘南高校時代の話(恩師、学校行事、弦楽部など)/社会に出て湘南の人脈 世界的なオーケストラ指揮者・大野和士氏(53回)との関係/大学入試状況と対策・倍率・全入・二極化が進む。人気学部今昔、センター試験について、東大その他国立大学・有名私立大学の入試について、「資格」関連情報について/「一生懸命でなくして、真の反省無し」という大野和士氏からのメッセージを紹介、「どんな時、どんな場所、どんな状況においても、自分自身に求める尺度を変えてはいけぬ!」

<3年生> [2006年5月22日]

講師:渋谷千恵磨氏(36回・起業家)

演題:「一生懸命、気働き、義...渋谷千恵磨の仕事」

内容:苦学して慶応義塾大学経済学部入学、大学3年時YKK吉田工業に就職内定し、中南米冒険旅行、大学卒業後同社に入社するが間もなく退社、料理店を始める。そば打ちを学び、気に入った器を作るために陶芸を始める。苦学の末事業を軌道に乗せ、スイミングスクール、介護老人施設も経営するようになるが、常に頭の中にあるのは相手に喜んでもらう「サービス」の心。「義」という言葉を人生の座標の軸とし、仕事の上でも大切にしている。正義の「義」、義理人情の「義」、義務の「義」、大義の「義」、仁義の「義」。正義かどうかは大事な事、人に世話になったら義理を感じ、また大義がなかったらやらない。権利より義務を果たす。今後、大学に行き、社会に出てからも、「義」という言葉を忘れずに、がんばって下さい。

「青春 かながわ校歌祭」への協力・参加

担当:[主]佐藤(31)・筒井(31)・山田(32)

天野会長の呼びかけに各方面からの賛同を得、2006年10月21日(土)県立青少年センターホールにて、第1回「青春 かながわ校歌祭」が開催されました。



午後1時、湘吹会有志によるファンファーレで開会、厚木高校ダンスドリル部によるアトラクション、天野実行委員長の開会挨拶、来賓挨拶、伊集院俊光氏(31回)指揮による「箱根八里」の全員合唱で開会式が終了、参加22校・同窓会による校歌披露に移りました。

趣向を凝らした服装、伝統ある校旗・応援旗・のぼりなどを持参し、各校が7分間の演奏時間に、校歌を含めて2~3曲を発表しました。湘南高校・湘友会は、22番目の「トリ」で、現役の合唱部、応援団、教員、OB・OG合わせて100余名が舞台上に登場。指揮・杉野氏(27回)、伴奏・ブラスバンド湘吹会有志、現役応援団のエールで始まり「青春の歌」「選手を送る歌」を合唱、続けて、指揮・甲賀氏(31回)、ピアノ伴奏・小野寺さん(現役)による校歌を披露し、各方面から称賛を得ました。その後行われた閉会式では、湘南高校はそのまま舞台に残り、共催者である県教育委員会・引地孝一教育長の閉会挨拶、指揮・伊集院氏、ピアノ伴奏・小野寺さん、荒木さん(現役)により「遥かな友に」「仰げば尊し」を全員で合唱し、混乱もなく時間通りの進行で、大成功のうちに終了することができました。

<2007年度の取り組みについて>

担当：[主] 名井(32)・山口(32)・山田(32)
 2007年は32回生を中心に参加することになりました。
 皆様方のご協力をお願いします。

第2回 「青春 かながわ校歌祭」

- 1. 期 日 2007年10月13日(土)
- 2. 会 場 県立青少年センターホール
- 3. 共 催 神奈川県立高校校歌祭実行委員会
 神奈川県教育委員会
- ・参加校 26校
- ・役 員 副実行委員長 名井(湘南・32)
- ・演技内容 持ち時間10分(時間内に入退場)
 校歌・その他(応援歌等)歌唱
 伴奏(バンド・ピアノ・テープ等)

・今後の対応 開催への協力と参加方法は前年度と同じ(卒業生・現役を含む)
 本年は終了後、懇親会開催を検討中。

参加希望者を募りますので、参加希望者は、葉書またはメールで、住所・氏名・電話番号・卒業回数・E-mailを明記の上、8月31日までに下記宛お申込み下さい。電話での申込みはご遠慮下さい。

<参加申込先> 湘南高等学校湘友会事務所
 〒251-0053 藤沢市本町3-1-3 湘南ビル 301
 E-mail : shoyukai@cityfujisawa.ne.jp

「青春 かながわ校歌祭」に参加希望者は、6月23日(土)湘友会総会終了後、および9月23日(祝)(時間・場所は追って連絡)に練習会を予定しております。湘友会総会、練習会に是非ご出席下さい。

- 初代校長のご家族から -

父 赤木愛太郎の思い出

サンパウロ 田村(旧姓・赤木)

父は皆様ご存知の通り、大正10年湘南中学(当時)に初代校長として赴任して参りました。6月に創立になり、7月に私が末子で生まれましたので、いつも湘南と私が同じ年ですので忘れられません。その頃は男子のみでしたので学校内の父の様子は分かりませんが、他の方や母の話等から断片的に書き認めます。

物心ついた頃、学校のプール建設、体育館作り等一生懸命でした。又、教頭先生方をよい学校に榮転なさる事に奔走して居りました。又、高校(旧制高校)進学時季になりますと、毎朝朝刊片手に今日は何処々々に何人入学されたと喜んで標をつけて居りました。又、校則として生徒さん方に句で戒めとして「校外飲食、カンニング、グレと盗はなおさらのこと」と詠んだのも忘れられません。次に、月曜日は日曜日の翌日で、皆生徒さん方が疲れて能率が上がらないので「火曜考査」と名付け、火曜日にテストを行って居りました。

兄3人が湘南でしたので、母が父兄会に行きますと、父の話はとても面白くワ-ワ-と講堂で皆を笑わせて居ったとの事です。又、父は、5人兄姉の末子として生まれ、始めから両親が可愛かったのか、末子ですのに愛太郎と名付けられ、その名を模って「赤き(赤木)心で勤めたならばあいたろう(関西弁であきたの意)とてわしゃいかぬ」と詠んで、皆様にあきらまれても学校を去らず、27年間お世話になりました。

家庭内ではいつもリラックスしてごろっとして、大声で怒った声や、手を上げる等見た事もなく、温かく

甘えなくなる人でした。兄達3人も高校時代はそれぞれ東京等の寮に入りますと、父はたまに上京して飲みに行った様です。私も女学校1年の時初めて父にタ-キ-(水の江さん)を見に連れて行って貰い、こんなにきれいで素敵な世界があると、勉強一筋でなく、結構父のお陰で(?)楽しい学生時代を過ごしました。女の子に今流行のものを見せようという親心と今も感謝して居ります。随分、不良校長でしょうか?一方、母も宴会等で飲んでも袴に染一つついてなかったと几帳面なところを自慢して居りました。



父は、おそい子持ちで、私は末子でしたので一緒に居る時は少ないのですが、結構、兄達より父と一緒に居る事が長く、お嫁に行くまでの21年間、疎開した時藤沢に帰り、父と畑をしたり、二人の大好きな甘いおはぎ、赤飯等作って食べたり楽しかった事が思い出されます。

8月で死後50年になります。始めは藤沢に埋葬して居りましたが、孫の都合で東京に移され、父は一寸悲しんでおりますかしら、大好きな藤沢の学校から遠くなりましたので。そして、皆様方のお陰で胸像まで作って頂き、さぞ父も喜んで居る事でしょう。紙上をお借りして心からお礼申し上げます。

最後に、何年前、ブラジル湘友会があり、皆様とお知り合いになり、父の娘というだけで入会させて頂きお礼申し上げます。父の事をご存知の方も少なく、幹事の森様(34回)等は、毎朝、胸像を磨かされたと言われ有難うございます。そして、6月に開催された湘友会総会に出席するよう、天野武和湘友会長様よりのご招待に対し、健康上の都合でお応え出来ませんでしたこととても残念に存じましたが、湘友会の皆様のご厚意に心から感謝申し上げます。

校友の皆様方のご健闘と湘友会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

(2006年8月25日したたむ)

湘南高校 Now

湘南の一年

まずは、今も健在の伝統ある学校行事を追って、この一年を振り返ってみましょう。生徒たちは勉強と行事を両立させつつ充実した青春を過ごしています。

陸上記録会：4月28日、好天のもと平塚陸上競技場で行われました。クラス単位で陸上競技の成績を競います。入学間もない新入生が、先輩たちの圧倒的な力を見せつけられる日です。スタンドを飾る大きな「色の旗」も新たな名物となっています。

文化祭：6月17,18日の両日、全・定・通3課程合同で開催されました。広い校舎をフルに使って多彩な催しが展開されます。多目的ホールで行われる音楽系部活動の発表は特に人気で、開場を待つ長蛇の行列ができるほどです。今年は6月16,17日の土日に予定されています。



合唱コンクール：7月12日に茅ヶ崎市民文化会館で行われ、クラス対抗で歌声を競いました。全員参加で、まさにクラスがひとつになれる行事です。

体育祭：地区の名物で湘南高校最大の行事、体育祭は9月19日(火)に実施されました。雨による順延で、平日の開催となったにもかかわらず、保護者・卒業生をはじめ大勢の観客が訪れ、スタンドもスロープも人で埋まりました。一番の呼び物は仮装演技。1年をかけた準備がわずかに10分間に集約され、若いエネルギーが炸裂します。芸術性の高いオリジナルデザインのバックボードも必見。今年は9月17日(敬老の日)に開催の予定です。



修学旅行：昨年度は、10月11日から3泊4日で沖縄を訪ねました。南部戦跡を巡る平和学習と、マリンスポーツなどの体験学習を通じ、平和と自然の尊さを学びました。今年は原点に戻り、関西方面4泊5日の歴史と文化の旅を計画しています。

対組駅伝：11月15日に辻堂海浜公園で実施。4月の対組陸上で幕を開けた対組運動競技がこの日完結し、3年生が参加する最後の体育行事となりました。

スキー教室：1月3~7日に菅平高原で実施。暖冬で雪不足が心配されましたが何とか間に合い、1年生約120名が参加、全員上達して元気に帰着しました。

予餞会：近年は、卒業式前日に行われています。3年生は思い出を語り、1、2年は世話になった先輩を心を込めて送ります。

部活動や進学でも善戦

部活動も相変わらず盛んです。平成18年度は、フェンシング部が高校総体で京都の全国大会に進出したほか、水泳部が千葉の関東大会に、陸上部が山梨での関東大会にそれぞれ進出しました。その他多くの部活動が県大会レベルの活躍をしています。

部活ではありませんが、一輪車競技やカヌーで活躍した生徒、数学オリンピックで予選を勝ち抜いた生徒もいます。湘南生の多芸多才ぶりには本当に驚かされます。

これだけ課外活動に熱心に取り組みながら、学習もおろそかにしないのが「湘南魂」です。この春の東大合格者は11名と久々に2桁に回復、一橋大や私立上位難関校でも善戦し、県立校トップの座を維持しています。

新しい湘南に向けて

この春の高等学校入学者選抜では、本校も英国数の3教科で独自問題による学力検査を実施し、従来の枠組みにとらわれない出題で、受験生徒の思考力や想像力をみましました。

平成17年度に県立高校の学区が撤廃されて以来、入学してくる生徒も全県に広がり、旧学区外から通ってくる生徒が半数を越えるようになりました。学区撤廃や独自問題の効果の検証はこれからですが、全県から優秀な人材が集まって、さらに切磋琢磨し、大きな成果をあげることが期待されます。

また、定時制と通信制は、県立高校改革推進計画の中で新しい学校として生まれ変わろうとしています。

通信制は、横浜平沼高校通信制とともに、現在の和泉高校の施設を活用した通信制独立校として平成20年度に開校する学校に集約されます。一方、定時制は単独改編され、平成21年度に単位制の定時制として本校施設内で再出発することになっています。

全日制も19年度から県の「学力向上進学重点校」に指定され、神奈川県を代表する「スーパー高校」として、新たな躍進の時を迎えようとしています。今後も後輩の活躍に応援をお願いします。

(前・全日制教頭 山本先生)

定時制部会より

定時制部会長 杉浦 信次

定時制部会報告

1. 湘友会での活動

1) 定時制部会は、2006年度より湘友会総会の日(日)に総会を開催、その後、湘友会総会に出席しております。2006年度は、約60人の定時制会員が湘友会10年会費を納入し、また6・16・26回生が輪番会員として湘友会総会の受付等を担当しました。なお、今年度は、7・17・27・37・47回生が輪番に当たります。

2) 湘友会入会説明会について

3月6日(火) 卒業生に対する湘友会入会説明会を実施しました。3修生、4年生が一堂に集まる機会がないため、卒業式前日になりました。

2. 「進路セミナー」開催について

昨年9月11日(月) 3年生を対象に、「進路セミナー」と称し、キャリア教育講座を行いました。セミナーの目的は、最近増えてきたアルバイトをしながら通学する生徒、あるいはニートやフリーターに対し、部会の役員や講師(卒業生)を招き、入江前校長ならびに吉川前教頭両先生のご配慮を賜わり、働く意義をはじめ、フリーターと正社員の生涯賃金差などを認識づけようというものです。

当日生徒たちは、面接の練習 進路相談 小論文の書き方 企業説明会に臨むに当たり、履歴書の書き方の留意事項、求人票の見方、などのコースに分かれ個別指導を受け、どのコースの生徒も真剣な表情と質問なども出るほどの熱心な受講ぶりでした。今年度はもっと早い時期から数回に分けて行うなど、学校側と調整しながら年間事業計画に位置づけていきたいと考えております。

3. 2006年度の活動

- 4月 6日 入学式
- 5月 定時制部会報発行
- 5月・7月 連絡委員懇話会の開催
- 6月24日 定時制部会総会・湘友会総会出席
- 9月11日 進路セミナーの開催
- 3月 6日 湘友会入会説明会
- 3月 7日 卒業式

体育祭および定時制通信制全国大会出場者には、定時制部会として、些少ですが補助を行っています。

今年の総会は、6月23日(土)9時から、母校・応接室で開催します。

通信制同窓会(むつみ会)より

むつみ会会長 若命 徳達

10才になった「むつみ会報」

平成9年「むつみ会報」の創刊号を発行してから、今年で10年になります。この間、湘友会、湘南高校はじめ関係各位のご指導、ご協力を賜り、未熟ながら続けてまいりました。紙面をお借りして関係各位に厚くお礼申し上げます。

さて、皆さんご存知のとおり平成20年3月の卒業生を最後に、湘南通信制の卒業生は誕生しません。これは高校改革に伴い湘南高校の通信制と、平沼高校の通信制が統合されて、新しいタイプの通信制単独の高校が、横浜市泉区にできるからです。これにより50年ほど続いてきた湘南高校通信制は幕を閉じることになります。寂しいの一言ですが、これから通信制に学ぶ生徒にとって、学びやすい環境の学校ができることですので、見守っていききたいと思います。

「むつみ会」の活動に目を通してみますと、この10年間は、ムリ・ムラ・ムダが多かったと思いますので、これからは、地に足をつけて全員が楽しめる同窓会活動を目指していききたいと思います。今年度はいろいろと行事の多い年になりそうですが、参加者が楽しめる内容にしたいと思いますので、ぜひ参加して下さい。(活動内容は、「むつみ会報」で確認して下さい。)



初めての方にも丁寧に指導 「ヘルシー料理教室」

予算・決算報告(省略)

ウェブ版湘友会報についてのご説明

ウェブ版は、会員のみならず会員以外の不特定多数の方々にも参照されるため、次の改変を行っていますのでご了承ください。

会員の氏名は、名前は削除し、姓のみ記載。また、連絡先電話番号、住所は削除。ただし、会長、副会長、校長先生、著名な方、故人の姓名は原文のまま。

決算・予算報告、教職員の異動、委員会等の組織の構成員のリストは割愛。

湘友会ウェブマスター

財政健全化のためのお願い

財務委員会

会計報告でご理解いただけたと思いますが、湘友会の財政健全化のため、皆様のご協力をお願いします。

「10年会費」の全員納入のお願い

1997年より納入をお願いしてまいりました「10年会費」は、ぜひとも全員納入をお願いします。当該学年だけでなく以前の輪番年に未納の方もお願いします。(納入方法は、P.1の「総会運営の輪番参加と『10年会費』納入のお願い」をご参照ください。)

寄付のお願い

湘友会の支部・同期会・クラブ・職場などの諸会合や個人での寄付をお願いします。一例として、2006年に31回生が卒業後50年になるので、1口5,000円の寄付を募り、湘友会に寄付されました。可能な方法でよろしくをお願いします。

払込用紙が必要でしたら、湘友会事務所にご請求くだされば送付致します。

新入生向け小冊子「秀麗の富士 湘南」発行



湘友会では、今年度より、初めての新入生向け企画として、湘友会小冊子を発行することになりました。(全日制新入生対象)

湘南高校の歴史を中心に、入学を祝う言葉、湘友会の活動などをB5版16ページにまとめ、表紙の色は、学年カラーに合わせてあります(今年度は、赤)。

湘南高校での有意義な高校生活と、新しい伝統作りに、少しでも役立ててほしいと願っています。

湘友会小冊子「秀麗の富士 湘南」第4版作成

湘友会では今春も、新入会員に、入会案内を兼ねた小冊子「秀麗の富士 湘南」第4版を贈りました。

湘友会のあゆみや活動の様子、卒業生からのメッセージなどが掲載され、内容はホームページでも見ることができます。



支部だより

学年だより



藤沢支部

2007年度藤沢支部「夏の集い」へのお誘い

本年8月18日(土) 18時より「グランドホテル湘南」にて、恒例の「夏の集い」が開催されます。恒例の講演(講演者未定)の後、生バンド演奏などを聴きながらの立食パーティーでは、恩師や友人との懐かしい語りも一興。この機会に、藤沢市民でない湘友会員も、ぜひ参加していただきたい。

因みに昨年は場所も同じホテルで、トルコ大使等を歴任した山口君(30回)による「公正・不偏の視点から世界をとらえる」と題した講演と、パーティーが開催されました。(太田 34回)

鎌倉支部

鎌倉支部は逗子・葉山を含めて活動していますが、昨年9月16日(土)に鎌倉芸術館で総会を開き、元劇団「四季」の沢木(鈴木・39回)君が歌う名曲を楽しみ、盛会でした。今年は5月19日(土)5時半から、鎌倉の二の鳥居前の浅羽屋で幹事会が開かれ、湘友会の役員にもご出席いただき、湘友会の様子を伺い、これからの活動について話し合われました。

この幹事会は、毎年春に開かれ、鎌倉・逗子・葉山の過去・現在に在住・在勤の方なら誰でも自由に出席できます。気軽に下記へご連絡ください。

事務局：志賀野(47回)

(内海 31回)

平塚支部

平塚支部は2006年12月16日(土)17時からグランドホテル神奈中平塚で、湘友会天野武和会長にご出席いただき、支部会員37名の参加のもと、支部総会・懇親会を開催しました。(田中 36回)

湘北支部

2006年10月14日、天野湘友会会長のご臨席のもと、大和グランドホテルで支部総会を挙行了しました。記念講演には、小田急旅行にて長い間活躍された近藤さん(32回)に、体験から得た貴重なお話をしていただき大好評でした。懇親会では、中垣支部長の希望により招聘したハワイアンバンドの演奏を聴きながら、お招きした茅ヶ崎や厚木の役員さん達を囲んで親交を深めました。

2007年最初の幹事会は、1月26日に新年会を兼ねて、大和市内の高級料亭(?)で開催し、昨年企画したが実行できなかった、海外または国内の支部旅行などについて検討しました。(眞鍋 定3回)

12回生 同期会最終回

平成18年度22回目の同期会を、去る2006年5月27日例年通り藤沢市在、日本料理「ひよく」で開催した。判明している現存者は28名で前年と同数、過去1年間是一人も欠ける者はいなかった。出席者は8名となった。われわれの同期会はやれるまでやる、と申し合わせていたが、卒業して間もなく70年になる、何人かは今年米寿(満88歳)を迎える、年齢その他を勘案



し、無理は禁物と幹事が判断して、開催通知には、今回をもって最終回とする旨通知した。そのためか、例年と雰囲気の違い、終始学生時代の思い出話が続き、予定より1時間も超過した。お互い頑張って長生きしようを合言葉に、われわれの同期会の幕を下ろし終止符を打った。一抹の寂しさが感じられた。

(溝延 記)

18回生

素晴らしい好天に恵まれた2006年10月19日(木)、第18回生同窓会が昨年に引き続き藤沢地区在住者が世話役となって、場所も同じ藤沢産業センター(7階)で開催された。残念ながら毎回ご出席を頂いていた春原先生はお身体の調子がよくないとのことで、今回はご欠席となったが、旧友40名が、一年ぶりに集まって賑やかな会合となった。

会は長谷川君の司会のもと、宮田君が開会の挨拶を行い、続いて石井君の幹事代表挨拶、西島君の物故者への追悼の黙祷が行われた。乾杯の音頭は遠方から遙々参加してくれた彦坂(神戸)、中元(奈良)両君の合同発声で行われ、昼食をとりながらの懇談に移った。会も盛り上がる中で、中元君より専門の医学的見地から我々高齢者の健康維持の一方法としてのヨガ的健康法の披露が行われたが、彼の年齢とは思えないような柔軟な体の動きに、一同から驚嘆の声が上がった。引き続き下元(旧姓水城)君から彼の湘中卒業後の水泳人生について話があり、特にマスターズ競技に参加してからの世界ランクの上位を占める彼の赫々たる成績の裏には、今でも毎日1,000メートルの水泳を欠かさぬ精進がある事を知らされ、これまた一同から賛嘆の声が上がった。予定の時間も瞬く間に過ぎ、集合写真の撮影後、鍋木君の指揮の下「湘中懐古の賦」、「校歌」を合唱して散会した。(中嶋 記)

20回4卒の会

平成18年度の総会が、2006年10月6日(金)グランドホテル湘南で開催されたが、台風2つが同時に関東に接近、これに前線が刺激されて大荒れとなり、悪

条件の中ではあったが、それでも45名の元気な会員諸氏が集結して、定刻13時より開会した。

第1部は、堀江君の司会で始まったが、冒頭、(1)会長より出席の皆さんに対し、深甚なる謝辞が述べられ、



次いで本総会が日本人男性の平均寿命78.53才を乗り越える節目の総会となる旨の説明があり、

今後は生存者の数が逆転して少なくなる段階に入っていくので、今まで以上に互いに助け合い協力し合って行きましようとの挨拶があった。(2)黙祷、(3)恒例の校歌斉唱は、本年は細君に替わって新顔の西川君が担当、慶大応援部時代の実績を再現して体全体を使った威勢のよい指揮ぶりで会場を沸かせた。(4)会計報告、監査報告、(5)新役員選出も原案通りに承認されて、異議なく第1部を終了した。下里君による記念撮影は、今回は4列に並んで大型写真に納まり、当日配布された。

第2部は隣室宴会場へ移動、司会が石川君に交替、根岸君の乾杯の音頭に合わせ、大声で唱和してから一気に盛り上がってきた。なつかしい友の顔、酒よし、料理よし、話よしで、なごやかな宴会が続いたが、所定の時間となり、君塚君の閉会の挨拶と石川君の三本締めを最後として、15時30分お開きとなり、次回の再会を約して散会することになった。

(植木 記)

20回5卒の会

2006年11月23日卒業61年記念同窓会を藤沢産業センターで開催。記念撮影後、原田代表の挨拶に引き続き宮原君のミニスピーチ『長崎原爆体験談』があり、その後歓談に移り、和やかなひと時を過ごした。

一昨年卒業60年記念同窓会を開催、これを機に今までの同窓生300名全員による鎌倉、藤沢、平塚3地区の持ち回りの同窓会形式に終止符を打ち、継続希望者103名の同窓会に模様替えをし、毎年11月23日・



藤沢産業センターにて定期的開催することに決め、初めての会合であったが、半数近くの40名が出席し、盛会で

あった。毎年ご出席を戴いていた春原先生は体調不良のためご欠席であったが、北海道より横浜に転居した豊島君や久しぶりに出席した西君の声が聞かれた。

会員の大半が傘寿を迎え『一人で外出が困難なため欠席』という返信が増えてきたため、本年度より同伴者の席を設けることにした。これからもさらに相互の連携を保ちながら楽しい余生を送ることを願っている。

(青木 記)

27回生

27期会(不作会)総会・懇親会を2006年6月16日(金)17時30分より、横浜ベイシェラトン&タワーズで開催しました。出席者は112名、先生方は4名出席賜り、合計116名という想定外の盛会となりました。卒業以来54年を経て73歳を越える高齢とすれば、昨年度の116名と同じだったのは上出来でした。朝方の大雨が午後さっと上がったのもラッキーでした。

38組・横溝君の幹事クラス代表挨拶と、秋山会長挨拶を皮切りに、次いで恩師代表として93歳にもなられる濱田先生のしっかりしたご挨拶に驚嘆させられましたし、総会は会務報告、財務、会計報告などが全会一致で承認されました。

司会の松下君の手馴れた切り回しで懇親会に移る。今年



堀田さんの歌声にうっとり

年のイベントは歌とピアノによる生演奏です。湘南高校で17年も教鞭を執られ、現湘友会副会長でもある堀田さん(旧姓三島・湘南高校女子1回生)の美しく張りのある歌声に魅せられ、また、ピアニストの美間さん(夏の甲子園で、全国制覇した時のメンバーだった38組・原田君の長女)の独奏も圧巻でした。会場の皆さんは感動したのか、行儀良く一同シーンと聴いていたのが印象的でした。演奏会の後、小泉君の巧いスピーチで乾杯。旨いお酒と、当ホテル自慢のビュッフェ料理に舌鼓を打ちつつ、久しぶりの友との談笑が会場に響き渡る。中締めは当ホテルを経営する相模鉄道(株)の会長でもある38組・星野君の「27期生はもとよりお子様から孫の代まで当ホテルを最良にして欲しい。」とのユーモアたっぷりの挨拶で締め括った。

来年の担当幹事クラス39組主催の総会・懇親会で「また会おう」と握手し合い、互いの健康を祈りつつ解散し、今年の会は楽しく幕を閉じました。

「人生で、友と健康は最大の宝なり」と実感した次第。

(38組幹事 川井 記)

湘南高27期生の近畿在住者は、合計11名。全員永住者で、是非会合を持とうということになり、世話人・藤本君(38組)の音頭で、2006年7月25日大阪・梅田北新地「木曽路」に集まり、お互い健康で再会できたことを祝福、和気あいあいの楽しいひと時を過ごしました。27期会(不作会)近畿支部も皆頑張っています。参加者は、宇野(39)木村(36)桑原(30)嶋(39)伊達木(38)野崎(36)藤本(38)の計7名でした。その際、8月6日より始まった甲子園全国高校野球を観戦することになり、大会4日目を楽しみました。高野連会長の大先輩 脇村春夫氏と連絡をつけたところ、会長は試合と試合のわずかな時間を割いて球場外に出てこられ、我々一人ひとりと固い握手を交わされました。短い時間の立ち話でしたが、優勝時の思い出話に華が咲きました。写真は、球場入口近くに



全国優勝を果たした各校の優勝旗が飾っており、「湘南」の旗をバックに記念撮影をしたものです。向かって左より、野崎、小泉、脇村

高野連会長、桑原、嶋、藤本、以上の諸氏です。昔も今も高校野球の応援の雰囲気は全く変わっていないと実感、次第に心の片隅に若き高校時代の青春が蘇った一日でした。

なお、近畿支部の世話役・藤本 君は、夏の甲子園大会開催中は毎年球場入口付近にて、ファンの記念写真シャッター押しサービスをボランティアで活動しています。(桑原 記)

湘南 27 期会は、最後の湘南中学生として、昭和 21 年から昭和 27 年までの 6 年間で湘南の丘で過ごした仲間である。約 400 人の卒業生からは多士済々いろいろな人材を輩出しているが、ここでは慶応義塾大学医学部を卒業した医学博士の比企君(33 年卒)について紹介してみよう。

比企君は、昨年秋の第 32 期の慶応義塾評議員選挙で医学部同窓会(三四会)の推薦を受けて立候補、見事に初当選された。比企君は三四会の会長であり、同会として初めて卒業生評議員を送り込むことになった。平成 19 年に創立 150 年を迎える慶応にとって、医学部の存在はきわめて重要であり、最高議決機関にあつての同氏の活躍が期待されている。

慶応にはかつて湘友会が存在したが、現在は組織化されていない。しかし湘友会の仲間たちが協力して同氏の選挙応援をしたことが大きな支えとなった。もちろん湘友会としても初めての快挙といえよう。同氏は外科医として日本消化器内視鏡学会、日本消化器外科学会などの会長を務め、主として北里大学病院で活躍された。同大東病院院長で第一線を退かれたが、現在も名誉教授として後輩の指導にあたっておられる。この間、湘友会の仲間が彼のお世話になったものは枚挙に暇がない。

同氏が慶応のボートの選手として、昭和 31 年メルボルンで開催されたオリンピックに出場したことも付記しておこう。(杉山 記)

30 回生

恒例の同期会(第 15 回)は、2006 年 9 月 22 日(金)午後 3 時より、グランドホテル湘南に於いて開催。恩師(斉藤、雨宮、小山、望月各先生)をお迎えし、又、卒業後初めての参加者や米国在住者も加わり同期生 85 名が参集、今は亡き恩師・同期生に黙祷を捧げたあと、いつものような大変な盛り上がりで、時の経つのも忘れ、楽しい一時を過ごしました。

本年度の同期会は、11 月 10 日(土)(同ホテル)を予定しており、詳細は追ってお知らせします。

又、卒業 50 周年を機に発足した「悠稀会」の展示会は、

2006 年 9 月 19 日～24 日迄、茅ヶ崎市民ギャラリー展示室にて開催、多くの来場者がありました。

尚、本年度の「悠稀会」は、同展示室にて来る 2007 年 9 月 18 日(火)～23 日(日)開催致します。ご来場をお待ちしております。湘友会ホームページに、一昨年開催した「卒業 50 周年記念作品展」の作品を掲出しておりますのでご覧下さい。(遠藤 記)

31 回生

2006 年は卒業 50 年になり、10 月 21 日に天野武和君が実行委員長で 31 回生も協力して開催された「青春かながわ校歌祭」(県立青少年センター)に多数出席し、その後で記念の同期会を萬珍楼で開き、盛会でした。また卒業 50 年を記念して湘友会への寄付をお願いしたところ、合計 64 万円の寄付が寄せられ、お礼申し上げます。

15 回目の同期会は、花見君が「日本歴史唱歌」という楽しい歌を作られましたので、その披露と恩師の小山先生にも関連したお話をさせていただこうと下記の通り開催しますので、ぜひご出席下さい。

日時:2007 年 9 月 8 日(土)16:00～19:00(受付 15:30)

場所:鎌倉芸術館(大船駅より 10 分)0467-48-5500

内容:花見君と小山先生のお話 その後懇親会

会費:8,000 円

連絡先:内海 Tel&Fax 略

(内海 記)

42 回生 第 3 回同期会開催

下記スケジュールで第 3 回の同期会を開催します。

日時:2007 年 10 月 27 日(土) 16:00～

場所:グランドホテル湘南

詳しくは、湘友会ホームページを。(今村 記)

44 回生

卒業してから初めての同期会を下記のように開催いたします。懐かしい顔を探しにぜひ出席して下さい。

日時:2007 年 6 月 23 日(土) 17:30～

場所:グランドホテル湘南(藤沢駅北口、郵便局そば)

(菊地 記)

いろいろ湘友会

出版湘友会 設立総会開催

出版業界に在籍する湘友会会員で組織する「出版湘友会」の設立総会が 2007 年 1 月 31 日、東京、神楽坂の日本出版クラブ会館で開催された。

当日は設立に賛同した会員 32 名中 25 名(内女性 12 名)が出席した。設立総会では規約の承認と役員選出を行い、会長に杉本(40 回・NTT 出版) 副会長 横山(49 回・暮しの手帳社) 事務局長 菊地(40 回・金子書房) 会計監査 林(45 回・京王書籍販売) 樋口(58 回・三省堂)の各氏が就任した。

会員は30歳から60歳と幅広く、所属も出版社、販売会社、書店、プロダクション、フリーエディター、ルポライターと多岐。

懇親会は51回の樋口(日本書籍出版協会)さんの司会で進められ、初対面の会員が多かったにもかかわらず、同窓とあって昔話や業界の話題で盛り上がった。また、岩波書店の坂巻さん(41回)から高校の恩師であられる小山先生の著書「漱石先生からの手紙」を担当し、昨年11月に刊行したことが紹介された。

連絡先は金子書房の菊地まで(TEL 略)

(菊地 40回 記)

秀麗会(英語研究部OB会)

2006年11月19日(日)JR横浜駅東口スカイビル横浜クルーズクルーズにおいて、第27回総会を開催しました。「秀麗会」は英語研究部OB会とし



て1980年(昭和55年)に発足して以来、活動を続けています。昨年は27回目の総会でした。会員数は現在67名です。当日は、総勢18名(お子さん1名)が集まりました。阿部会長(46期)の開会の挨拶と乾杯で始まり、歓談では最近の湘南高校の様子を伝える資料が回覧され、皆さん大変興味深く読むと共に学校の様子が変わっていくことを実感していました。その後、恒例の全員の近況報告があり、さらには本会のホームページがリニューアルされ、会員間の情報共有手段として期待する声が寄せられました。(湘友会ホームページからリンクしています。)

今年度は、例年の11月第3日曜日から第2日曜日(11/11)に変えて開催することを決めて、1年後の再会を楽しみにしつつ散会しました。

(外崎 54回 記)

一弓会(弓道部OB/OG会)



2006年1月、それまで同好会として活動していた『弓道教室』が、職員会議にて『弓道部』として承認され新たな一歩を踏み出しました。

『弓道教室』は校舎新

築に伴い造られた弓道場を利用し、1997年に篠崎先生が発起人となり開かれたのが始まりです。

以来、校医であった中村先生、現在藤沢市弓道協会会長である山本先生夫妻など、たくさんの方の協力を受けながら活動を続け、現在は荒井先生ご指導のもと活発な活動を続けています。念願の部に昇格したことで、参加できる試合の幅も広がりました。

そして、弓道教室時代からのOB/OG会を「一弓会」と称します。これは現役を引退した時に山本先生

から同じ一つの弓を輪切りにした記念品をもらうのですが、これにより私たちメンバーが一つの弓で結ばれているということに由来しています。

2006年8月、「神明館弓道場」と名付けられた弓道場に集まり、OB/OGなどは自分たちの現役時代を振り返ったり、現況を報告しあうなどして盛り上がりました。記念品に使用される「弓」が2張、3張と続くように伝統を作っていってほしいと願っています。

(関 77回 記)

福祉湘友会

2006年7月15日(土)母校応接室にて、障害者自立支援法について、当事者、行政、サービス提供者、それぞれの立場から、全50回国見さん、全54回高島さん、全39回柳谷さんに話してもらい、その後、清明会館食堂にて懇親会を開催しました。2007年1月20日(土)藤沢さいか屋8F煌蘭にて総会・新年会開催。

次回は7月上旬、藤沢市民会館にて、「子どもの虐待問題」をテーマに、特定非営利活動法人子ども虐待ネグレクト防止ネットワークなどで活動されている全54回の山田不二子さんにお話しいただき、研修と懇親の会を開催する予定です。問合せ、連絡は、全37回 奈倉、全46回 小林 TEL&FAX:(略)

(奈倉 37回 記)

2007年春の湘南高校職員異動

略

先生方の湘南回顧録

湘南に現在も続く70分授業

望月 先生 (在任：昭和23～45・47～49年)

昭和23年4月学制改革により、湘南中学は湘南高等学校になりました。当時各学校は、翌年より実施される新制高校の教育課程に備えて、その準備に追われていました。新教育課程の大きな特徴の一つに、選択科目の導入がありました。湘南高校でも研究会を開いたり、各地の有名高校に先生を視察に派遣して、準備の真っ最中でした。或る日の職員会議で日比谷高校を視察された西山先生が「日比谷では変わった方法を考えて準備している。なんでも1授業時間が100分で、各々の生徒が自分の希望する科目を選択した時間割をもって授業を受けるのだそうだ。これは数学の組合せを応用したものと言っていた」との報告がありました。50分授業でクラス単位の時間割で過ごした先生方には確かに魅力的でしたので、詳しく調べてみることになりました。そして、組合せの応用なら数学の分野だから、数学科のしかも新しい教育を受けた若い者がよいのではないか、ということになり突然の指名を受けてしまいました。3月に学校を卒業し4月に初めて赴任したばかりの新米教師の私にとっては青天の霹靂でしたが、これも新参者の運命とあきらめ、若さも手伝って引き受けました。その後日比谷高校を訪れ詳しく内容を調べてきましたが、数学の組合せの応用でもなく1授業時間を100分として2週間分の時間割を作り、これを繰り返すというものでした。要は生徒が必要とする必修科目や選択科目を全部網羅し、しかも選択科目は学年別の境をなくして全講座を設け、これに対して生徒個人が各々自分の希望する科目の講座に登録するというものでした。2週間を区切りにしたのは、5単位の教科は1週間に250分授業しなければならないので、100分授業では2回半と半端になるが、2週間にわたれば丁度5回になり、3単位(体育)2単位(芸術)の講座は併せればこれも5回ですむ計算になるわけです。実際には、英・数・国・理・社・体・芸の7教科の全講座に1から6までの番号をつけ、生徒は自分の希望する選択科目を含めて、1から6までの番号をだぶらずとればよいわけです。原理は簡単ですが、実際には限られた教員数で、1000人に近い生徒の講座を総て配置し、選択科目の講座は異学年の生徒がまざり、しかも各講座の人数をおおむね50人に制限しなければならないのは容易なことではなく、実現は不可能に思われました。私としても初めての事で自信もなく、実施してみなければわかりませんと正直に申しました。ただ、日比谷の先生が「これは日比谷高校だから出来るんで、ほかの高校では無理ですよ」といわれた言葉に、日比谷高校で出来



て湘南高校に出来ない筈はないという気持ちで、常に私に実現への勇気を与えてくれました。多く先生方の協力で体系は出来上がりましたが、全く自信のないまま登録日を迎えました。2月の寒い日プール横の体育館に学年毎に集合して、生徒は右往左往して1から6まで番号をだぶらずに登録したのですが、先生方も生徒も大変だったと思います。しかし実際はその後の調整に如何に苦労しなければならなかったのは、全く予想外でした。翌24年4月の新学期から無事に新課程で出発できましたが、どうしてできたか、私自身でも判らない不思議な思いでした。それも今では懐かしい思い出になっています。

こうして出発した100分授業もいろいろな問題点がありました。主なものとして文系の教科の先生からは、教科の性質から短い時間で繰返し教えた方が効果的であるとか、単位数の少ない教科は1回授業が欠けると取戻すのが大変だとか、クラス編成が毎学年変わっては生徒の受験指導が十分できないなどがありました。その後、修整を加えつつ毎年登録後の困難な調整に悩まされながらも続けてきました。そして、昭和31年4月に2年3年はクラス替えをしない固定クラスに、かつ、1授業時間を70分に変更しました。70分はいわば50分と100分の折衷案のようですが、これはある心理学者が「16～17歳位の人間の、緊張の持続度は70分が限度である」というのが根拠になっています。その後、必修、選択科目の学年指定が加わり、1年生2年生は殆どクラス単位の授業になり、3年生のみ昭和36年から所謂P(一般理科)Q(一般文科)R(理科)S(文科)のコース制に編成替えをしましたが、70分授業は相変わらず続いていました。その後も決して安泰ばかりではありませんでした。39年には県教育委員会からの指導がありまして、普通の50分授業で成果が上がるようにとのことでしたが、70分授業の長所を縷々説明して、経験的にこれが湘南高校の生徒に一番適した授業であることを力説して、了承を得て継続できたこともありました。その後は教育課程に大きな変化もなく、不備があれば改良を加えつつ、ただひたすら教務一筋に努めてまいりましたが、49年異動により湘南高校を離れることとなり、これまでの内からではなく外から湘南高校の発展を眺めつつ、昭和60年に教育界を退きました。

時移り平成14年に孫が湘南高校に入学したとき「おじいちゃん、湘南は70分授業なんだよ」と言うのを聞いた時、あの70分授業はまだ続いていんだなぁと一瞬感無量でした。その孫が卒業したとき70分授業はどうだったかと聞くと「始めは大変だったけど、慣れてきたら良かったよ」との事でした。「それはそうよ、70分授業はおじいちゃんが全力で……」と口先まで出かかった言葉を呑み込み、私が湘南高校を離れた後も70分授業を守り育て続けてこられた多くの先生方に感謝しつつ、あくまでこれは湘南高校に対する私の自己満足として、心に残しておきたいと思っています。

母校・校史資料提供のお願い

湘友会ではこの度、母校の校史資料を蒐集することになりました。お心当たりのある方のご協力をよろしくお願いいたします。

将来的には全時代の資料を体系的に蒐集整理しなければならないのですが、手始めに昭和33年校舎火災焼失以前の資料を集めることにしました。該当する湘南中学・湘南高校の資料等がありましたら寄贈をお願い致します。湘友会がお預かりし、整理した上で母校に移管する予定です。

内容としては 学校の運営に関すること 湘南生の学校生活に関すること 当時の高校生の学生生活に関すること等の印刷物やグッズ、その他です。

整理の都合で蒐集期限を20年3月末までとし、該当する物がありましたら湘友会事務所までご一報ください。

また、この件で、整理等にお手伝い下さる方がおられましたら、湘友会事務所まで、ご連絡をお待ちしています。

担当 篠田(33回)

村田邦夫先生の歌集『遙かなる鈴鹿』出版のご案内

昭和13年～昭和38年の長期にわたって母校の教壇に立たれ、熱血教師として多数の生徒を指導された村田邦夫先生の歌集が初めて限定出版されました。

歌集を出版されたのは、「文学史の会」という湘南高校の生徒の父母が中心になって、村田先生を講師にお招きして日本の古典を勉強するため、三十有余年活動を続けた会です。



歌集の内容は、(1) 諸歌誌へ投稿されたもの(2) 挽歌を中心とする長歌(3) 鈴鹿を舞台とする歌(4) 折りに触れて生まれた歌などの短歌500余首と長歌30首から成ります。頒価は1500円です。

購入ご希望の方は、Fax、葉書またはメールで、氏名 郵便番号 住所 電話番号 卒業回数(卒業生の方)を明記の上、湘友会事務所までお申込み下さい。歌集(払込用紙同封)をお送りします。なお、電話での申込みはご遠慮下さい。

(筒井 31回 記)

創立85周年記念「湘友会名簿」発行



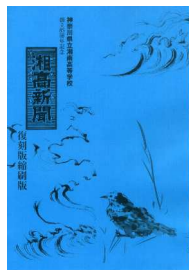
会員の皆様のご協力により、昨年6月、5年ぶりに新名簿が発行されました。同期会の開催、クラブOB・OG会、支部の運営等にぜひご活用下さい。

まだ多少の残部がありますので、購入ご希望の方は、湘友会事務所までお問合せ下さい。代金は、1冊5,000円(送料込み)です。

なお、湘友会会員以外の方には販売致しておりません。商業的利用はお断り致します。(組織委員会)

「湘高新聞復刻版」未購入の方へお願い

湘南高校創立85周年記念行事の一つとして「湘高新聞復刻版」の刊行を行いました。内容は好評ですが、湘友会員の購入希望者が少し足りず、まだわずかに残部があります。



未購入の方は、ぜひ購入をお願いします。頒価は、3,000円。払込用紙は、湘友会事務所にご請求くだされば送付致します。

湘友会ホームページあれこれ

ブログ・システムをベースに ホームページを全面改訂

湘友会ホームページは2000年に開設され満7年を経過しました。従来のトップページはさすがに最近のインターネットとウェブ動向からは古めかしくなっていました。ブログやSNS(Social Network Service)に接し慣れた方々は、特にそう感じられていたでしょう。

ホームページの参照も変化しています。トップページから入って中をサーフするという従来スタイルから、グーグルやヤフーなどの検索機能を使って目的の情報に直接到達するやり方が主になり、検索エンジン対応(いわゆるSEO)も必須になっています。

総会・講演会・懇親会での親睦は、多忙な現役の会員にはなかなか参加しにくく、それを埋める対策として、ブログやSNSに見られるようにインターネットを活用しての緩やかな連携と、時間と場所の制約を超えた親睦は欠かせないものになっていくでしょう。

以上のもろもろの変化と動向を踏まえ、会員参加型のサイトへの転換を狙いにして改訂されています。

湘友会を構成する各組織や会員の皆様からの記事投稿・リンク掲載、また、ホームページ全般への皆様のご意見・ご提案など、よろしくお願い致します。

なお、ヘッダー写真下左に「サイト利用方法」を用意してありますのでご参照ください。

(湘友会ウェブマスター)

人・生き生き

元日本サーフィン連盟理事長
坂田 道さん(30回)



さかた おさむ

昭和 12(1937)年生まれ。早稲田大学法学部卒。特殊製鋼(現大同特殊鋼)入社。日本サーフィン連盟理事長、同相談役。

聞き手：遠藤(30)、深谷(30)、柏木(51)

<湘南高校時代までの思い出>

私は広島県呉に生まれました。その後横須賀、そして藤沢の片瀬に移り、藤沢小学校に入学しました。当時、父は海軍少将で松島航空隊司令を務めていましたが、終戦間際、飛行機の事故で亡くなりました。

父の職業柄、住まいはいつも海の近くという環境もあって、私は子どもの頃から海が大好きでした。当時は、現在のサーフィンのような、ボードに立って波に乗るという遊びはなく、板子と呼ばれる板に腹這いになって波に乗って遊んでいました。

昭和 27(1952)年、藤沢第一中学校から湘南高校に入学しました。私は中学校からトランペットを吹いていたので、高校ではブラスバンド部に入りました。ブラスバンドの会と呼んで今でも交流があるのですが、私たち 30 回生はユニークというか、おもしろい人が多かったです。

2 年生から 3 年生になる春、野球の甲子園選抜大会にブラスバンド部として応援に行きました。部員は 40 名程いたのですが、お金がなかったので 18 名が応援に行きました。生徒会でお金を負担するということになってその是非をめぐって論争にもなりました。甲子園球場内の阪神タイガース 2 軍の宿舎に 2 泊させてもらったのですが、試合の方は高知商業に 1 回戦で敗退してしまいました。

また、1 年生の時から、早慶戦の時、慶応側の外野席で湘南高校のブラスバンド部が応援していたのです。慶応大学のブラスバンド部は一つしかなく、慶応大学応援団副団長が湘南高校ブラスバンド部の先輩だったという関係から、外野は湘南高校に任せるということになったらしいです。当時、外野の方が演奏が上手いと言われたこともあり、私が 1 年生の時、全国

吹奏楽コンクール高等学校の部で第 1 位となり大優勝カップを獲得する程、実力的には高かったのです。

私は高校時代も海が大好きで江ノ島でよく泳ぎました。海では板子乗りをよく見ました。当時板の上に立ってみたいなという思いはありました。そして高校 2 年生の時大磯に引っ越しました。

<日本人初のサーフボード製作>

卒業後、私は早稲田大学法学部へ進学しました。大学時代はハイソサエティ・オーケストラと呼ばれるフルバンドに所属してジャズに熱中し、トランペットを吹いていました。ハイソは四歳年上の兄たちが作ったクラブということで入りました。グレン・ミラーやベニー・グッドマンやカウント・ベーシーの曲をよく演奏していました。

大学時代も海が好きで、特に波乗りには大変興味がありました。鎌倉にフロートと呼ばれる木製の波乗りの道具があると聞き、由比ヶ浜の海の家と親父さんと交渉し、5,000 円で売ってもらいました。当時大学卒の初任給が 14,000 円という相場だったので、かなり高価なものでした。フィンはなく、板子と違って中空構造になっていました。長さが 2 m 程あり、横須賀線鎌倉駅の改札を通してくれず、最終電車になってから乗車許可が出て、やっと大磯に持ち帰った思い出があります。

大学卒業後、私は特殊製鋼(現在の大同特殊鋼)に就職しました。大磯から東京の会社に通勤していたのですが、社会人になっても海が大好きでよく海に出ていました。ある日、休暇中の厚木米軍キャンプの軍人たちが、板とともに波に乗って、おまけにその板の上に立って波を横に滑っていく光景を目にしました。彼らは本国からサーフボードを持ってきてサーフィンをしていたのです。今までの板子では立とうと思っても立てなかったのに、彼らは立って横にも滑っていく。これには相当驚きを感じました。ハワイではこのサーフィンなる遊びが流行っていることも噂で知り、サーフボードというものがどういうものであるか大変興味を持ちました。

東京永田町の国立国会図書館に出向き、文献を調べてみると、サーフボードの構造が記されていた書物を探し出しました。ウレタンフォームをグラスファイバーで巻き、フィンがついた現在のサーフボードと変わらぬものでありました。構造も理解できたので、後は自分で作るしかないという結論に達しました。

材料はグラスファイバーとポリエステル樹脂で、ウレタンフォームをボードの形に削り出していくのですが、まるでグライダーの翼のようなものを作っていたのです。作業は自宅前の古い空き家で続け、当時はまだ休みが日曜日だけであったので、完成までに 3 か月もかかりました。長さ 3 m、幅 55cm、重さ 15.6kg もある 1 号艇がようやく完成しました。そして大磯海岸でシャンパン代わりにコーラを抜いて進水式を行いました。

ところが、乗り方を教えてくれる人も、乗り方の教則本もないので、サーフボードの上ですぐに立てるといふ訳にはいきませんでした。何度かの週末、ボードを持って海に出かけ、米軍キャンプの軍人たちが楽しそうに波の上を滑っていた光景をイメージしながら、何度も練習しました。そして、ついにフワッと波に乗り、ボードの上に自分の二本足で立ったのです。やったあーという感じで、波の上を立てて滑っていく。この感動はやったものじゃないとわからないかもしれませんが、この瞬間の感動は今でも忘れません。ちょうど私が27歳で、昭和38(1963)年、東京オリンピックの前年のことでした。

<日本サーフィン連盟創立へ>

鎌倉や茅ヶ崎の板子乗りたちが、大磯の私のサーフボードや波乗りを見にくるようになりました。昭和40(1965)年頃になると、西武百貨店がサーフボードの輸入を始めましたが、1艇123,000円もするものでした。大学卒の初任給が15,000円の時代でしたから、なかなか彼らは買うことができません。そこで彼らに製作技術を教えたり、逆に彼らが真似てサーフボードを作るようになったりして、しだいに波乗りを広めていきました。

サーフィンの輪が広がり、大磯では私を中心に「大磯ビッグウェーブズ」が結成され、同じ神奈川では鶴沼、茅ヶ崎に、千葉では鴨川にサーフィンを愛するグループが結成されました。そして、全国に同時発生的にサーファーのグループができ、サーフィンが流行し始めました。

この頃、私はサーフィンを心身を鍛える手段としてとらえ、この素晴らしいスポーツを健全に育てるにはどうすればいいの

か考えるようになりました。当時、サーファーを遊び人、または会社をドロップアウトした人とイメージする風潮もありました。私は、求心力のある連盟組織の必要性を感じ、全国にサーファーのグループが乱立すれば混乱しが生まれないと考え、サーフィン連盟設立に向けてサーファーのグループに呼びかけを行いました。

昭和40(1965)年、仲間と共に日本サーフィン連盟を創立させました。大磯、茅ヶ崎、鶴沼、千葉、東京のサーファーのグループの50人程でした。この団体がサーフィンを健全に発展させる核となるように定款も作り、外国のサーファーと交流することなどの将来構想も盛り込みました。私はまだ年も若く、実行部隊である運営委員長となり、初代の会長を日本体育協会の会長であった故八田一朗氏に、副会長を音楽家であり11PMの司会者として有名な故小島正雄氏にお願いするなどの配慮もしました。今のJRや小田急電鉄にサーフボードの車内持ち込みを許可してもらう陳情も行

いました。このことはサーファーの便宜を図ることだけではなく、大手鉄道会社にサーフィンを健全なスポーツとして認知させるという作戦もありました。これは余談ですが、現在とはサーファーも風俗が違って、連盟の会議に長髪で参加した者に、散髪してこいと注意するなど、体育会的なテイストもありました。翌年の昭和41(1966)年、早くも千葉県鴨川で連盟主催の第1回全日本サーフィン選手権を成功させました。そして全国的組織にあつという間になり、現在では会員2万人をかかえる大組織になりました。この間、私は日本サーフィン連盟の理事長を18年、その後相談役を務めました。

<サーフィンを通して学んだこと>

私は、一生の趣味であるサーフィンを通して海のことをよく知りました。そのことは必然的に環境問題にも興味を持ち、海の汚れ、潮の流れ、砂浜の減り具合など、自然のうちに勉強していたのです。海については学者よりも詳しいと自負しているし、実際、最近学者が私たちサーファーに自然のことを聞くようになってきました。昔、海岸に港を作るという計画があった時、学者がその建設に係わっていましたが、自然のことを本当にわかっていないから、港に砂が溜まったり、周辺の砂が浸食されたりして、たいがい失敗しているのです。サーファーは自然の微妙なバランスを体で感じ取っているため、環境問題には非常に敏感なのです。

また、私は高度経済成長期に社会人になり、その時代は仕事人間が美德とされていました。サーフィンというレジャーで休暇を取るなど論外という時代でした。私は最後は企業人として定年をむかえることができましたが、会社だ



インドネシア、バリ島クラマスにて撮影(2006年)

け、仕事だけで生きていこうとは思いませんでした。長い人生、楽しく生きるをモットーに、海で体を動かすことが好きでした。また、それを継続することが大事なことだと思っていました。人間の体というもの、やりたいという意志に対してはうまくついていくものです。海というのは生物発生の源であり、神秘的なものを多く持っているところであります。その海を私はサーフィンを通じてこよなく愛していきたいと思いません。

大変ありがとうございました。私たち同窓は、坂田さんのご活躍を今後も祈念しております。

<平成18年11月25日 湘友会事務所にて>

(文責 柏木)

2007年湘友会アレコレ

80周年記念誌・記念品(絵はがき)販売中

母校創立80周年を記念して発行された「記念誌」と「絵はがき」(教員・先輩寄贈の校内展示絵画8枚組)を残部がある限りでお譲りいたします。

価格は「記念誌」1800円、「絵はがきセット」700円、共に送料込みの値段です。購入希望者は、郵便局備付けの払込取扱票に氏名、卒業年次、住所、品目数を記入して下記口座に送金下さい。入金確認後直ちに発送します。00260-7-13577 湘友会

絵はがきに収められている絵画は次の8葉です。

- 「烏森」塚本 茂(元美術教諭)
- 「バンジーのある静物」山下大五郎(1回)
- 「ピンのある静物」三浦次郎(1回)
- 「アネモネ」鈴木 清(1回)
- 「6月の港」石川滋彦(2回)
- 「辻堂風景(落日)」甘糟三郎(18回)
- 「城ヶ島」小泉元生(20回)
- 「イルストの見える丘」澤 昌男(22回 元美術教諭)

湘友会報バックナンバー寄贈のお願い

湘友会では90・100周年に向けて、校史資料の充実を図っており、その一環として「湘友会報」バックナンバーの整理を行っています。昨年の会報で1~35号の寄贈をお願いしたところ、多くの方のご協力があり、お蔭様でほとんどの号が揃いましたが、未だ第3号・第4号・第5号・第7号・第8号が欠落しています。ご提供いただける方は、湘友会事務所までご連絡下さい。どうぞよろしくお願い致します。

会報編集部から寄稿に関するお願い

毎年2月末までに届いた同期会、クラブOB・OG会、各種湘友会などの記事は、会報に掲載できます。連絡先明記の上、A4版用紙に記事(横書き、300字程度)や写真(1枚)などをまとめて事務所に直接お送り下さい。もちろん事務所宛に、フロッピーディスク直送(windows版)や、文書ファイルまたはテキストファイルを添付してメールを送信していただいても結構です。ただし、**2月末の締切期限は厳守**して下さい。

「同期学年全体にわたる集い」「同窓会全体に呼びかける集い」「クラブ毎のOB・OG全体の催し」について会報に掲載する旨の基準を設けさせていただいております。判断不明のときは、事務所にお問い合わせ下さい。ご協力よろしくお願い致します。

湘友会会員数2007

2007年3月の新入会員は、全日制315名、定時制44名、通信制289名(一般生16名、少年工科学校273名)で、合計648名でした。2007年現在の会員数は、判明している物故者を除いて約47,000名となります。

湘南高校新入生2007

全日制	男子 189名	女子 128名	計 317名
定時制	78	68	146
通信制	63	91	154
少年工科学校	270	-	270

湘友会ホームページ

**ホームページのアドレスを
www.shoyukai.org に一本化 します**

湘友会ホームページは、主に団体組織に使われるwww.shoyukai.orgと、企業組織で使われるwww.shoyukai.comの二つを用意し、どちらも同じホームページが表示されるようにしていましたが、来年よりwww.shoyukai.comを廃止します。

つきましては、ご使用のブラウザの「お気に入り」に登録されている「湘友会ホームページ」のアドレスをご確認いただき、アドレスの最後が「com」になっている方は「org」にご変更ください。「com」のままですと来年より、「ページを表示できません」、または「Page not found」のエラー表示となります。早期にご変更いただきますようご協力よろしくお願い致します。

後記

「湘友会報(web版)」は、ホームページで見ることができます。

会員の住所変更については、湘友会ホームページ、E-mail、はがき、またはFAXで、湘友会事務所宛お知らせ下さい。特に物故者については、連絡者を明記して下さい。

事務所では、多くの迷惑メールに悩まされています。判り易い具体的な件名をつけて送信をお願いします。

来年2008年の総会運営は、卒業年次末尾「8」の方々が中心になります。全日制的38・48・58・68・78回生の皆さん、定時制・通信制の8・18・28・38・48回生の皆さん、出番です！よろしくお願い致します。

第49号の編集スタッフ

(略)